

プエルトリコ（2025 年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [ロサンゼルス日本文化センター](#)

1. 2024 年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024 年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	1	51	1	1	25	1	2	76

（注）2024 年度日本語教育機関調査は、2024 年 9 月～12 月に国際交流基金が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

1970 年代から 1980 年代にかけての日本企業進出の影響により日本語補習校が設立。生徒は駐在員子女を中心に 20 名前後、日本からの派遣教師 1 名。地元との文化交流もあり、生け花や折り紙の展示会等も行われていた。

1990 年頃から日系企業の駐在員数が減少し、2001 年に日本語補習校は閉校となった。

1980 年から 1985 年にかけて、プエルトリコ大学リオピエドラス校にて日本語公開講座が開設され、日本語教育が盛んに行われるようになる。1988 年にはプエルトリコ大学リオピエドラス校で、1998 年にはプエルトリコ大学マヤグエス校でも日本語講座（選択科目）が開設された。1990 年代以降他大学や民間語学学校でも日本語講座が断続的に開設されたが、多くは受講者不足や教員不足により閉鎖されることとなった。

2000年代以降、ポンティフィカル・カトリック大学、インターアメリカン大学、サクラダ・コラソン大学などで日本語講座が複数回開設されたが、教員の異動・帰国を主因として閉鎖と再開が繰り返された。

2016年以降、大学および民間機関で日本語教育が再活性化し、公開講座、オンライン講座など多様な形態が導入された。2020年にはプエルトリコ大学リオピエドラス校で選択科目としての日本語講座が再開され、2025年現在、同校では初級・中級・上級の選択科目および公開講座を開講している。また、同校では日本文化クラブが設立され、学生主体の文化活動も活発に行われている。経済的な日本との繋がりや文化交流の土台、ポップカルチャーの影響（アニメコンベンションの開催）などにより、現在も日本への関心は高い。

背景

1898年、米西戦争の講和条約でアメリカ合衆国自治領となる。政治・経済・文化的にアメリカとの関係が強いが、1970～1980年代の日本企業拡大時代には、主に自動車関連企業を中心に日本人駐在員が500名程いた。しかし2001年頃を境に各社は完全にローカル化され日本人駐在員が激減した。2025年時点では駐在員を要する日系企業は数社のみとなっているものの日本に対する関心は現在も非常に高い。合気道、空手、武道や盆栽、日本のポップカルチャー、アニメなども流行している。このような背景のもと、地域の人達の日本への興味は年々増加しているが、その一方で日本語教育に対する政府の関心はそれほど高くない。国としてはスペイン語（第一言語）と英語が公用語となっているため、初中等レベルにおいては英語が必修科目となっており、それ以外の外国語教育はそれ程重要視されておらず、私立校でラテン系言語を取り入れている学校が幾つか存在する程度に留まっている。また日本人人口は国全体で100名前後（プエルトリコ日本人会調査、2025年）と少数であるため、日本語教育の必要性、実用性に限界があることも政府において日本語が重要視されない理由のひとつとなっている。日本語教育はアメリカ合衆国に比べると遅れているが、大学では日本留学・就職を目標とする学習者が年々増加している。

特徴

スペイン語と英語の併用国であるため、英語は初等教育レベルから必修科目となっている。公立学校（初中等教育レベル）で日本語教育を実施している機関はないが、私立学校（中等教育レベル）で選択科目として日本語講座を開講しているところが2校ある。私立学校ではフランス語、イタリア語を教えているところもある。

プエルトリコ大学外国語学部の専攻科目はフランス語、イタリア語、ポルトガル語、副専攻科目は、ドイツ語、中国語で、日本語は選択科目となっている。年々日本語学習者は増加しており、日本語の学習動機としては、日本文化への関心、若年層のアニメへの関心、技術・経済の発展した国として良好なイメージを持っていること等が挙げられる。しかし国内には日系人が少なく、日本語学習の実用性が低いため、初中等教育における日本語教育の拡大は難しい状況。高等教育レベルにおいては、日本への留学や就職などを目標に日本語を学習する者が多い。2022年から日本語教師はプエルトリコ全体で2名（日本人教師2名）、各々がカリキュラムを組み、教材を選択しており、共通のシラバス・ガイドラインはない。また、日本語能力試験は実施されておらず、受験する場合は個人的にアメリカ合衆国の受験地に参加するようになっている。

最新動向

上述の通り、初中等レベルの公立学校で日本語教育は実施されていない。私立学校においては中等教育レベルの

サンフランシスコ高校で日本語が開講されている。若年層における日本への関心は高く、高等教育レベルで日本語講座を開講しているプエルトリコ大学リオピエドラス校の日本語学習者数は増加傾向にある。同校ではカケハシ・プロジェクトに参加した学生達は日本文化紹介セミナーや体験談の共有に積極的に取り組んでいる。また 2025 年には日本文化クラブを設立し日本祭り等様々な行事を行い日本語、文化活動を促進している。現在卒業生 2 名が JET に参加している。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

公立学校での日本語教育は実施されていないが、私立学校（中等教育レベル）で日本語初級レベル（選択科目）を 2014 年からクリスチャンスクールで開講されたが現在は廃止されている。2018 年にフォーラーアカデミー私立学校では中高校生むけの選択科目として初級コースが設置されており、受講生が日本クラブを結成し PTA も参加し 2018 年から日本文化紹介イベントを実施する等活発であったが、2020 年のコロナ禍以降一時休講となっていた。2023 年から私立のフォーラーアカデミー私立学校で再度初級日本語がオープンされたが教師不在となり閉講。サンフランシスコ高校では初級日本語が選択科目として実施されている。同校には日本語クラブが設立され 2024 年、2025 年にはプエルトリコ大学で開催された日本祭にも参加した。

高等教育

プエルトリコ大学リオピエドラス校外国語学部では、1988 年以降長年に亘って選択科目として日本語講座を実施してきた。2017 年に選択科目が休止されて公開講座のみとなっていたが、2020 年から再び選択科目（初級・中級）が開講された。2021 年には日本語及び中国語の学生が合同で第 1 回オンラインアジア文化祭を開催、2022 年からは対面で毎年実施している。JET プログラムに応募する学生も増加している。外国語学科の専攻科目はポルトガル語、フランス語、イタリア語の 3 か国語、副専攻はドイツ語、中国語の 2 か国語、この他、選択科目として日本語、ロシア語、アラビア語、ヘブライ語を開講している。

プエルトリコ大学マヤグエス校では 1994 年および 2004 年に一時的に選択科目として日本語講座が開講されたが、現在は廃止となっている。

ポンティフィカルカトリック大学及びポンセ市のインターアメリカン大学（私立）では、2009 年に日本の大学を卒業した地元出身者を日本語教授として招き日本語講座（選択科目）を開設。2013 年に一時休止するも 2016 年に再度開講した。

プエルトリコ大学アグアディア校においては 2017 年からプエルトリコ人の日本語教師によって新たに日本語の公開講座が実施されたが、2020 年のコロナ禍の影響で一時休止された。2022 年に日本語教師によってオンライン講座が開講された。プエルトリコには日系人が少ないことから、日本語が多少できても就職には繋がりにくく、大学で日本語を学ぶ学生の多くは JET プログラムや短期留学、あるいは文部科学省奨学金留学生の選考試験に合格すること等を目標にしている。2009 年と 2011 年 7 月には 2 名の学生が文部科学省国費生として合格し、多くの学生に

良い影響を与えた。また近年 JET プログラムに応募する学生たちが増え、毎年数人が採用され日本で活躍している。その他、2011 年 6 月に学生達と日本人会との共催で第 1 回日本祭り（東日本大震災への義援金集めが目的）を行い、好評を博した。このイベントはその後毎年行われている。

2023 年 3 月に在ニューヨーク総が主催した一日文化紹介セミナーが実施された。またカケハシ・プロジェクトに参加した学生は日本文化紹介セミナー等で活躍している。2025 年プエルトリコ大学の日本文化クラブは非常に活動的で、学内での行事、また地域で開催される国際文化祭、アニメ祭りなど積極的に参加している。近い将来プエルトリコ大学外国語学部では日本語副専攻設置を目標にしている。

学校教育以外

1970 年代から 1980 年代にかけては日本企業の進出により、（日本人子女のために）日本語補習校が開校され、小規模ながら地元コミュニティに文化を紹介するイベント（折り紙・生け花教室）も開催していたものの、一般人に対する日本語教育は実施されておらず、企業の規模縮小にともない帰国する日本人家庭が増えたことにより 2001 年に閉校となった。民間の語学学校においては、ベルリッツとパンアメリカンで日本人講師による日本語講座が開講されることもあるが、応募人数によって開講の有無が決まる。2019 年は閉講となったが 2021 年に開講された。2018 年に開設した私立の日本語学校 LINGUA LOGIC では、少人数制のオンライン講座（初級、中級）を開講しており、履修者は高校生、社会人が多かったが、2020 年 8 月よりコロナ禍の影響により休講。2025 年現在パンアメリカンで日本人講師による日本語講座が再び開講している。

3. 教育制度と外国語教育

教育制度

初等教育 6 年制（6～11 歳）

中等教育 前期 3 年、後期 3 年、計 6 年（12～17 歳）

高等教育 4 年

初等教育、中等教育前期は義務教育になっている。

教育行政 教育省

言語事情 主要言語はスペイン語。公用語はスペイン語および英語。

外国語教育

私立校の初中等教育においてはスペイン語、英語は必須科目で、それ以外の外国語に対しては一律の規定はなく、各学校で第 3 外国語科目（フランス語、イタリア語）を選択科目として開講している。公立学校では第 3 外国語の教育は実施されていない。高等教育機関における外国語教育は以下のとおり。

- プエルトリコ大学外国語学部：フランス語、イタリア語、ポルトガル語、ドイツ語、ロシア語、アラビア語、中国語、日本語。
- ポンティフィシカルカトリック大学外国語学科：フランス語、ポルトガル語、イタリア語、日本語。

- そのほかの大学では第3外国語として、選択科目フランス語、ポルトガル語、イタリア語が開講されている。

外国語の中での日本語の人気

プエルトリコはスペイン語と英語の併用国であるため、基本的にはラテン系言語に親しみがあるが、若年層はアニメコンベンション、盆栽クラブ、こいクラブ、柔道、空手道場といった日本のポップカルチャーや武道、芸術などへの関心が非常に高く、日本語は他の外国語に比べて人気がある。またスペイン語の発音が日本語に似ていることも、日本語に対して親しみを感じている理由のひとつとなっているようである。加えて、過去の日本企業進出により日本車が多く使用されていることや、最近では外国人経営による日本レストランが増加し、日本食が人気になっていることも日本語が人気である一つの理由である。

大学試験での日本語の扱い

日本語は扱われていない

4. 学習環境

教材

【初等教育】

日本語教育の実施は確認されていない。

【中等教育】

日本語教育の実施は確認されていない。

【高等教育】

Japanese for busy people 1、2、国際日本語普及教会（講談社 USA）、げんき Elementary Japanese1、2.中級日本語カルテット、kanji look and learn (Japan Times)、Japanese step by step (GENE NISHI, McGraw-Hill books)

【学校教育以外】

Japanese for busy people 1,2,3

IT・視聴覚機材

大学の日本語講座において、げんき副教材、インターネットやYouTube等からの日本の情報収集や、学生プロジェクトでのパワーポイントの使用等、頻繁にテクノロジーを活用している。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

過去の採用例を見ると、地元出身で日本語を習ったことがある教師が初級を教えていたとのこと。

高等教育

公立大学では大学院卒以上が望まれる。ただし私立大学においては、日本人であり、大学卒で日本語教師としての経験・知識があれば採用の可能性有り。

学校教育以外

大学卒が条件。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

現在、日本語ネイティブで雇用の教師は1名（非常勤ポスト）。ポンティフィカルカトリック大学の初級コース（選択科目）は教師不足のため休止中。プエルトリコ大学リオピエドラス校では選択科目として初級、中級コース、土曜日の公開講座を開講しており、ネイティブ教師としての役割は語学だけでなく、日本文化（伝統文化や生活等）も含めたクラスでの指導、日本祭の実施、大学内のオープンハウス、日本留学やJETプログラムの支援・協力なども含まれる。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修はない。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

プエルトリコでは日本語教育関係のネットワークはないが、各教師がアメリカの日本語教育会に参加するように努めている。

最新動向

特になし。

7.日本語教師派遣情報

現在特になし。大学では日本語教師は1名しかおらず、毎年学習者が増加しているので近い将来、副専攻になる可能性があり複数の日本語教師が必要となる見込み

国際交流基金からの派遣

JFからの派遣は行われていない。

その他からの派遣

以前は、プエルトリコ大学に ALLEX (Alliance for Language Learning and Educational Exchange) が派遣されたが、現在はない。

8.シラバス・ガイドライン

統一したシラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。各教師で作成。

9.評価・試験

評価・試験の種類

共通の評価基準や試験はない。各教師で作成。

10.日本語教育略史

1980年	日本人会に日本語補習校が設立される
1980年～1985年	プエルトリコ大学リオピエドラス校で日本語公開講座開設
1988年	プエルトリコ大学リオピエドラス校人文学部に選択科目として日本語講座開設

1990年	民間語学学校ベルリッツが日本語講座開設（2019年現在は閉講）
1998年	プエルトリコ大学ヤマグエス校で日本語講座（選択科目）が開講
2001年	日本語補習校閉校
2004年	プエルトリコ大学マヤグエス校で再び日本語講座（選択科目）が一時的に再開される
2005年	民間語学学校パンアメリカンが日本語講座開設
2009年	ポンティフィシカルカトリック大学、インターアメリカン大学（私立）に選択科目として日本語講座開設
2013年	ポンティフィシカルカトリック大学、インターアメリカン大学の日本語講座 一時休止 私立サクラダコラソン大学で日本語講座（選択科目および公開講座）開設
2016年	ポンティフィシカルカトリック大学の日本語講座再開 私立サクラダコラソン大学の初級・中級Ⅰ講座開設 日本文化祭開催（10月）
2017年	プエルトリコ大学リオピエドラス校の日本語講座（選択科目）は一時休止、公開講座の日本語コースのみ継続 プエルトリコ大学アグアディア校で日本語講座（公開講座）開設 私立サクラダコラソン大学の日本語講座が教師の帰国により閉鎖
2018年	フォウラーアカデミー私立学校選択科目日本語初級レベル実施 日本語学校 Lingua Logic（少人数）が初級、中級、オンラインコースを開設
2020年	プエルトリコ大学外国学部の選択科目として休止していた日本語初級1、2が再開。公開講座においても初級1、2を継続。
2022年	プエルトリコ大学リオピエドラス校 外国学部の選択科目初級日本語 1,2. 中級日本語 1,2 公開講座初級日本語 1.2 プエルトリコ大学アグアディア校 オンライン公開講座初級1

	<p>ポンティフィシカルカトリック大学 初級日本語 1,2</p> <p>パンアメリカン語学アカデミー 初級 1,2</p>
2023 年	<p>プエルトリコ大学リオピエドラス校外国語学部選択科目日本語初級 中級講座、土曜日公開講座初級 1, 2</p>
2024 年	<p>ポンティフィシカルカトリック大学の日本語講座が担当教師の異動 などにより講座は再び閉講</p> <p>プエルトリコ大学リオピエドラス校で日本文化クラブ設立</p>
2025 年	<p>プエルトリコ大学リオピエドラス校で選択科目の日本語講座（初級・ 中級、上級）、公開講座が継続開講</p> <p>在ニューヨーク総領事館領事がプエルトリコ大学訪問</p> <p>私立サンフランシスコ高校で日本語初級講座開講、日本語クラブ設立</p> <p>パンアメリカン言語学校初級講座再オープン</p>

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunikitsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）